



令和元年度 SIP 第 2 期 臨時課題評価結果

令和元年 6 月 27 日

ガバニングボード決定

平成31年2月28日のガバニングボードにおいて「A」評価より低い評価を受けた以下の4つの課題について、今般、ガバニングボードの決定に基づき「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」（座長：須藤亮 内閣府政策参与・SIPプログラム統括）において再評価を実施した。

【再評価対象の課題名】

- ◎ 「ビッグデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」（安西PD）
- ◎ 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」（佐相PD）
- ◎ 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（小林PD）
- ◎ 「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」（柏木PD）

再評価の目的は、上記4課題について、本年2月の評価における指摘事項を踏まえて、研究開発内容や体制等が適切に見直され、その結果、前回と同様の評価項目で再評価した結果、平均以上（すなわち、「A」評価以上）に達しているか否かを確認するものである。

なお、上記4課題に対して配分予定の本年度予算のうち、現在、配分を留保している予算（各課題の全予算額の半分相当）については、今回の再評価において「A」評価以上に達していることをもって配分することとする。

ガバニングボードは、「SIP第2期課題評価ワーキンググループ」の再評価結果を基に、上記4課題の再評価結果を以下のとおり決定する。

再評価結果

課題名	脱炭素社会のためのエネルギーシステム
PD名 (※敬称略)	柏木 孝夫

I. 総合評価結果

平成30年度課題評価では、主として、「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」としての研究開発テーマの妥当性やテーマ間のシナジー等について極めて厳しい指摘がなされたことから、今回、本課題においては、「革新的炭素資源高度技術」のテーマを中止し、研究開発テーマ数を4テーマから3テーマに重点化した。本課題で実施すべき研究開発テーマを絞ったことにより、課題全体の構成が分かり易くなった点は評価できる。

また、研究開発内容をよりの確に反映すべく、課題名を『IoE (Internet of Energy) 社会のエネルギーシステム』に変更するとの柏木PDの提案については、ガバニングボードとしても妥当と考え、これを認める¹。

本課題は、先般の評価結果を真摯に受け止め、柏木PDの下、サブPD、研究責任者、管理法人等が徹底した検討を行い、研究開発体制等の抜本的見直しを行った点は評価できる。

総合評価

A

II. 主な指摘事項

- エネルギーシステム、WPT（ワイヤレス給電）及びパワーデバイスを一つの課題の下で一体的に実施することについては、依然として難しさがあるのではないかと指摘も少なくないことから、柏木PDにおかれては、常にテーマ間の連携やシナジー効果を意識しながら適切にマネジメントをしてもらいたい。
- テーマA「IoE 社会のエネルギーシステムのデザイン」の検討が極めて重要であり、新しいビジネスの機会の創造を含めて、システムデザインの検討を早急に進めるべきである。また、未来社会のエネルギーシステムは、電力に限られたものではないことも本課題の中でしっかり発信してもらいたい。
- 走行中WPTについては、経済性及び制度整備の観点から、成果の普及に懐

¹ なお、課題名の変更に伴い、SIPとして、「脱炭素」と称するテーマが無くなるのが果たして良いのかと一部のWG委員からの指摘については、今後、ガバニングボードは、「脱炭素」に係る政府全体の取組を勘案しつつ、SIPとして取り組むべき「脱炭素」に関する事項が明らかになった段階で、新たな「課題」としての可否を、利用可能な予算等を含めて総合的に検討することとしたい。

疑的な指摘が根強くある。このため、研究開発と同時並行で、経済性評価（インフラ投資費用）及びリスク評価を精緻に行い、研究開発成果の普及に向けて、コストを誰がどのように分担するのか、どのようなビジネスモデルが成り立ち得るのか、どのような規制をクリア（又は整備）する必要があるのかなど、社会実装に向けた説得的な出口戦略を、実施主体、タスク及びスケジュール等を明確にして、策定すべきである。今後、S I Pで継続していくためには、この点を明確にすることなしには難しいことを十分留意すべきである。

- 全体的に研究開発される技術の国際優位性、国際動向等の検討が不明であるので、「勝てる国際戦略」を各研究開発テーマでしっかり検討してもらいたい。

（以上）

表 1 : 第 2 期課題評価のランク付け

評価	標語
S	極めて挑戦的な高度な目標を達成し、 <u>実用化・事業化も十分見込まれており、想定を大幅に上回る成果が得られている。</u>
AA	<u>適切に設定された目標を大幅に達成しており、実用化・事業化も十分見込まれており、想定以上の成果が得られている。</u>
A+	<u>適切に設定された目標を達成しており、実用化・事業化も十分見込まれるなど、想定以上の成果が得られている。</u>
A	目標の設定・達成ともに概ね適切であるなど、 <u>当初予定どおりの成果が得られている。</u>
A-	目標の設定又はその達成状況が十分ではないなど、 <u>予定を下回る成果となっている。</u>
B+	目標の設定又はその達成状況が極めて不十分で、 <u>予定を大幅に下回る成果となっている。</u>
B	目標の設定、その達成状況その他 <u>大きな改善を要する面がみられる。</u>

表 2 : 評価と得点の関係

評価	得点
S	140 点～
AA	130～140 点
A+	120～130 点
A	100～120 点
A-	90～100 点
B+	80～90 点
B	～80 点

(注) 平成 31 年 2 月 28 日ガバニングボードの評価結果に基づく。

S I P 第 2 期 課 題 評 価 W G 委 員 名 簿

◎座長

須藤 亮 内閣府政策参与・S I P プログラム統括

○委員

小豆畑 茂 元株式会社日立製作所フェロー

五十嵐 仁一 JX リサーチ株式会社代表取締役社長

江崎 浩 国立大学法人東京大学大学院情報理工学系研究科教

授 岡崎 健 国立大学法人東京工業大学科学技術創成研究院特命

教授梶川 裕矢 国立大学法人東京工業大学環境・社会理工学院教授

北岡 康夫 国立大学法人大阪大学共創機構産学共創本部副本部長

君嶋 祐子 慶應義塾大学研究連携推進本部副本部長・法学部教授

小宮山 宏 株式会社三菱総合研究所理事長

小向 太郎 日本大学危機管理学部教授

佐々木 良一 東京電機大学総合研究所特命教授

鮫島 正洋 内田・鮫島法律事務所代表パートナー弁護士

白井 俊明 横河電機株式会社マーケティング本部シニアアドバイザー

高島 正之 合同会社TMCコンサルティング代表社員

竹中 章二 池上通信機株式会社フェロー

林 いづみ 桜坂法律事務所弁護士

三上 喜貴 国立大学法人長岡技術科学大学特任教授・学長アドバイザー

吉本 陽子 三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社経済政策部
主席研究員

(※敬称略、五十音順)

臨時課題評価WGの審議実績

■ 令和元年5月31日 第1回会合

- 「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」（柏木PD）

■ 令和元年6月3日 第2回会合

- 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」（佐相PD）

■ 令和元年6月6日 第3回会合

- 「ビックデータ・AIを活用したサイバー空間基盤技術」（安西PD）
- 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（小林PD）